

卓越したシステム開発リーダーの育て方【会場・オンライン同時開催】 (4125232)

本講座では、卓越したリーダーに共通するスキルを養成するための自己トレーニング方法(自分のためのOJTマニュアル)を紹介します。これを通してマネジメントやマーケティング、仮説の立て方などのエッセンスも学ぶことができます。

開催日時	2025年8月4日(月) 10:00-17:00	
JUAS研修分類	ビジネススキル(チーム・リーダーシップ・指導力)、ビジネススキル(ビジネス・コミュニケーション)	
カテゴリー	共通業務 (契約管理、BCP、コンプライアンス、人的資産管理、人材育成、資産管理) ・セキュリティ・システム監査	専門スキル
講師	丸山有彦 氏 (m y コンテンツ工房代表 : 業務改革・文書コンサルタント) 1962年生まれ。専門学校にて講義およびテキスト作成に従事。同時に歴史研究者に師事し基礎研究法を学ぶ。その後、失語症の言語訓練を研究、渋谷失語症友の会副会長。訓練法を子供の作文指導、職業訓練に応用。その経験から新しい日本語の文法を構築する。現在、企業向けにビジネス文書、文章の指導を行っている。m y コンテンツ工房代表。渋谷油絵教室代表。 ブログで情報発信をしております。ご興味ある方はご覧ください。 http://mycontentslabo.com/	
参加費	J U A S会員/ITC : 35,200円 一般 : 45,100円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】	
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (NBF東銀座スクエア2F)	
対象	システム開発のリーダーを目指す方、リーダーを育成される方、その管理者の方 中級	
開催形式	講義	
定員	25名	
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。 (2時間1ポイント)	
ITCA認定時間	6	

主な内容

■受講形態

【選べる受講形態】

- A. 会場にてご参加
- B. オンラインにてご参加 : [【セミナーのオンライン受講について】](#)

■テキスト

- A. 会場にてご参加 : 当日配布
- B. オンラインにてご参加 : 開催7日前を目途に発送 (お申込時に送付先の入力をお願いします)

※開催7日前から開催前日までにお申込の場合、テキストの送付は開催後になります。ご了承ください。

■開催日までの課題事項

特になし

◆当講座はオンライン参加も可能な講座となります ◆

卓越したシステム開発リーダーの育て方

—その自己トレーニング方法(OJTマニュアル)を一挙公開

顧客満足度の高いシステムを作るリーダー*たちは、システムの品質確保・納期・予算遵守でも飛び抜けています。

システム開発の成否はリーダーの力量次第といつても過言ではありません。

このような卓越したリーダーを育てるにはどうしたら良いのでしょうか。

上司としてどのような対応が必要でしょうか。

卓越したリーダーを第三者が育てることはできません。

システム開発リーダーを目指す者が自己トレーニング方法(自分のためのOJTマニュアル)を確立していくしかありません。

上司の役割はこれを支援することです。

卓越したリーダーたちと勉強会を重ね、その要因を確認し検証してきました。

こうしたシステム開発リーダーに共通していることは、「要求・要件を聞き取り、顧客の要望についての仮説を立て、イメージが伝わる工夫をする」ということでした。

本講座では、卓越したリーダーに共通するスキルを養成するための自己トレーニング方法(自分のためのOJTマニュアル)を紹介します。

これを通してマネジメントやマーケティング、仮説の立て方などのエッセンスも学ぶことができます。

*本セミナーではリーダーは方向性を示す人、マネージャーはリーダーの定めた方向性の履行を管理する人と定義しています。

■主な内容

1 卓越したリーダーの条件

- [1] 顧客視点の獲得：「誰に・何を・どのように」
- [2] 共存共栄：実践計画のコントロール
- [3] 専門領域の形成：自分の強みを活かす

2 システム構築と要件定義

- [1] 要件定義：顧客のニーズ・要望を仮説
- [2] プロトタイプ：システムのイメージを提示
- [3] 当該業務についての専門知識

3 リーダーの習慣

- [1] 日々の業務記録：ポイントを抽出
- [2] 自社と競合他社の比較：顧客ニーズを探る
- [3] 成功・失敗の要因を分析：基準は顧客満足度
- [4] 仕組み作りとプログラム作り

4 仮説構築・検証の方法

- [1] P O Sシステムの事例
- [2] 仮説構築の前提：マネジメントとマーケティング
- [3] 日々の記録から仮説を構想
- [4] 仮説の確立：「仮説→実行→検証」

5 ノウハウの共有化

- [1] 学習プログラム化=O J Tマニュアル化
- [2] 一番効果的なリーダー養成法：自己養成
- [3] O J Tマニュアルの特徴と成功事例
- [4] O J Tマニュアルのつくり方

6 リーダーの仕事

- [1] 計画におけるグレシャムの法則：ルーティン優先のリスク
- [2] 改善と改革：ルーティンの改善と新しい仕組みの構築
- [3] 改善のためのO J Tマニュアル
- [4] 新しい仕組みのためのO J Tマニュアル